



都立府中療育センター新聞 第480号 発行日 平成29年11月30日

第44回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会

院長 大島 哲



10月26日(木)・27日(金)の2日間、第44回日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会がホテルポルスター札幌で開催されました。本協議会は、東日本地域の重症心身障害児者施設で構成されるもので、3つの地域ブロック(北海道・東北、関東、中部)に所属する施設が毎年交代で開催を担当しています。今年は北海道の6施設が主催し、59施設から約160名の参加がありました。

初日は、開会式の後、落語家で元札幌市議会議員の林家とんでん平氏の記念講演がありました。自ら障害者の父でもある氏は、リヤカーによる落語行脚の体験談や、手話落語を披露され、福祉の場でも笑いが大事であることを説かれました。理事長による基調講演「療養介護の質の向上とガイドライン策定について」では歴史的背景に言及したうえで、障害児者があらゆるライフステージで活躍できるように、生涯学習やスポーツ面で様々な配慮をすることが課題であると紹介されました。また、「療養介護の在り方を問う」では3名の発表者から実践報告、提言がありました。

まず、「訪問の家」の名里氏は、昭和47年当時重度重複障害のある児童は卒業後の通える場所がなく、「母親グループ」が主体となり地域作業所を創設したことなどを紹介し、どんなに重い障害があっても何かを感じている、気持ちを表現している。それを受け取られながら暮らすことの必要性を強調されました。また、「伊達コスモス21」の大垣氏は、長い福祉行政の実務の経験から、障害児者の社会参加について一歩先を見据えた視点から考えることの必要性を説かれました。さらに「北海道療育園」の林氏は、医療との比較から療養の質の評価と改善を提言されました。

2日目には現役麻酔科医による人工呼吸器管理の変遷と現状について講演があり、診療報酬、障害福祉サービス等報酬改定について現時点の動向が報告されました。午後は、札幌市郊外の「医療福祉センター札幌あゆみの園」を見学しました。平成11年に増改築されたそうですが、4棟の療養棟は全館フローリングで清潔感あふれ、とても18年の経過が感じられませんでした。居住空間も充実し、入所者、職員が生き生きと活動されていました。また、麻酔科医が2名も常勤されているのがうらやましくも感じました。

全体として、様々な課題があり、乗り越えるべき難題も山積されていることが明らかとなりましたが、それぞれの施設で工夫され活動されているのが印象的でした。



東京都永年勤続感謝ほか伝達式

11月6日(月)「東京都永年勤続感謝状」が13名に、「東京都社会福祉協議会会長感謝状」が1名に、「公益社団法人日本重症心身障害福祉協会永年勤続者表彰状」が10名に授与されました。

今後ますますのご活躍を期待しています。



秋の企画

指導科 田中 栄美



11月22日(水)、あじさい館にて、「秋の企画」を行いました。「秋」をテーマにした制作作品を鑑賞したり、焼き芋や焼き林檎を味わうことで季節を感じていただけるようにしました。

玄関ロビーには利用者の作品を展示し、会場内を時代劇絵本の「ねぎぼうずのあさたろう」を題材に飾り付けました。利用者の作品は収穫を待つ野菜が生き生きと描かれていました。写真コーナーでは、人気キャラクターと一緒に三度笠や道中合羽を羽織って、記念撮影をしました。また、あさたろうやきゅうべいのペープ

サートを手に取って遊べるコーナーでは、利用者のご家族や職員と一緒に楽しんでいました。さらに峠の茶屋では、みなさん名物の「焼き芋マッシュ」に「焼き林檎ペースト」を笑顔で食べていました。なお、芝居小屋の「くぬぎ座」では、「あさたろう」の映像を鑑賞し、イチョウが舞い散るグラウンドの、芋を焼く暖かい炎で秋の一時を楽しく過ごしました。

次回は「冬の企画」です。お楽しみに！！



秋のコンサート特集

4-1 保育士 山田 志津子

～ 全病棟合同 ～

11月1日(水)、あじさい館にて招待観劇会を行い、30名の利用者が参加しました。パーカッション・パフォーマンスデュオCalamusさんによるマリンバ・ビブラフォン・和太鼓コンサートを開催しました。Calamusさんは東京都のヘブンアーティストに登録され、主に上野公園でパフォーマンスをしている方々です。マリンバとビブラフォンによる演奏はとても圧巻でした。そして、途中から和太鼓が入り、ガラッと雰囲気が変わりました。和太鼓の迫力やマリンバ・ビブラフォンの優しい音色、お二人の素敵なパフォーマンスに会場内はとても楽しい雰囲気に包まれました。利用者からも笑顔、笑い声、拍手などがみられ、楽しんでいただきました。

今回、全病棟における初めての取り組みでしたが、利用者のみなさんは秋の楽しいひと時を過ごされていきました。

今回、全病棟における初めての取り組みでしたが、利用者のみなさんは秋の楽しいひと時を過ごされていきました。



～ 3-2病棟 ～

3-2 保育士 柏木 奈穂美

11月7日(火)、音楽ボランティアによるコンサートを行いました。

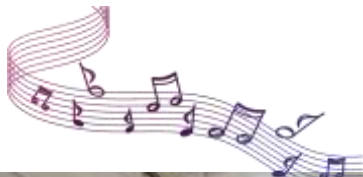
ボランティア団体の「音種♪」が3-2病棟でコンサートを行うのは、昨年に続き今回が2回目となります。

今回は、「ねこやなぎ楽団 音種♪スペシャル」と銘打ち、新屋賀子&ねこやなぎ楽団の「いのちの音」のCDから、オリジナル曲をメインに演奏してもらいました。途中で皆も知っている曲として「アメージンググレース」を歌っていただくと、しっとりとした歌に聞き入る方や、一緒に口ずさむ方もいました。

また、民族楽器を借りて一緒に演奏に加わると、木の実がぶつかる音に笑顔になったり、藤で編まれたような鈴をしっかりと握り締め耳元で鳴らして聞き入ったりと、皆が一体となり楽しむことが出来ました。

アップテンポな曲もしっとりとした曲も優しさが伝わり、利用者をはじめ保護者や職員からも笑顔があふれ、皆が癒される素敵なコンサートになりました。これからも、蒔いてくれた「音の種」がずっと繋がっていけると良いと思いました。





秋のお楽しみ会 ～武蔵台タップダンスサークル～



2-A 保育士



秋のお楽しみ会は、11月10日(金)「武蔵台タップダンスサークル」から9名の方にボランティアとして来て頂きました。武蔵台文化センターで週1回、50代の方からなんと91歳の方までが練習に励んでいるそうです。今回は、タップダンス専用の床板を持ち込んでくださり、タップダンスならではの素敵な音の響きを楽しむことができました。

ダンスが始まると、利用者はダンスを見たり、リズムカルなタップの音を聴いていました。また、笑顔でリズムに乗って楽しそうに身体を動かしている

方も多くいました。

皆が良く知っている「しあわせなら手をたたこう」のタップダンスもあり、歌って盛り上がりました。他病棟利用者の参加もあり、楽しい会になりました。



秋の総合防災訓練

事務室 山口 裕輔

10月24日(火)府中消防署栄町出張所署員の指導により、秋の総合防災訓練を実施しました。この防災訓練は、日頃からの防災意識を高め、センターでいつ何時災害が発生しても円滑に対策ができるよう職員の心構えを養い、災害時の組織体制を整備することを目的に毎年実施しています。今回の訓練は、昼間帯に多摩直下震度6弱の大規模地震が発生、それに伴う火災を想定したものでした。

地震対応訓練に続き、4-1病棟での火災を想定した消火・避難訓練を行いました。

消火・避難訓練では、今回はじめてトランシーバーを使用し、火災現場と自衛消防隊本部の情報伝達を行いました。消防署員からは、トランシーバーの使用方法や放送設備の重要性についてアドバイスを頂きました。

救助訓練では、消防署員により火災からの救助方法を披露していただきました。

防災教育では、エアーストレッチャーを使用した搬送法、消火器・消火栓による放水、起震車、濃煙などを実際に体験し、防災意識をより一層高めました。

災害の規模が大きくなればなるほど、「自助(自分の身は自分で守る)」・「共助(力を合わせて助け合い)」・「公助(公的機関が援助する)」が大切になってきます。職員一人ひとりの防災意識とセンターとしての災害時の体制整備を今後とも高めていくことが重要であり、来年もこの訓練を実施していきます。今後とも多くの職員が参加し、防災意識をより高められる訓練にしたいと思います。



新人看護職員臨床研修修了式

11月10日(金)平成29年度看護職員臨床研修修了式が行われました。
6か月間の研修を終えた新人看護師に「10年後の自分」について質問してみました！

10年後看護師として、利用者や家族、スタッフに対して常に笑顔で接することができるようになりたいと考えます。なぜなら、センターの利用者はスタッフの気持ちをよく感じ取っていると思うからです。だからこそ、少しでも気持ちの良い環境を整え、利用者へ寄り添い、確かな技術をもった看護師になりたいと思います。

社会人としても看護師としてもまだまだ半人前で、10年後という今の人生の2分の1にも及ぶ期間を意識することは難しいです。しかし、思い描いているキャリアプラン通りに自分が歩いていくためにも、先輩方の助言をいただきながら当センターで重症心身障害児者に関する看護学を学び、将来に活かしていきたいです。

10年後は、幅広い知識と迅速に対応できる観察力と技術を身に付け、後輩を指導できる立場になっていたいと思います。そして専門的な知識を深めて、キャリアアップを図っていききたいと思います。看護師を目指した時の気持ちを忘れずに、利用者の笑顔を引き出せるような看護をしていきたいと思っています。

10年後の自分は、今以上にチームの一員として、看護の質の向上に積極的に努め、利用者にとっての安全・安楽を第一に行動する自立した看護師でありたいと思います。同時に、自分を高めるために、認定看護師などのエキスパートの資格についても目指していきたいです。

10年後には自分の看護技術に自信を持ち、安全・安心な質の高い看護を実践できる看護師になりたい。そして利用者とのコミュニケーションを大切にし、利用者の思いや意思を尊重した看護を行うことができる看護師になりたい。そのためにも、日々の看護を振り返り、向上心をもって取り組んでいきたい。

10年後私は、同僚や、利用者から信頼され、頼りにされ、愛され、病棟になくはならない一人になっていると思います。さらに自分の能力を向上させるために努力をし続けています。また、私生活では、子育ても一段落つき、自分の趣味に時間を使い、公私ともに充実した日々を過ごしています。

病棟の先輩方のように、センターでの看護経験を積んでいき、新人看護師の指導を行ったり、関心のある分野ができた際は、専門看護師や認定看護師の資格をとり、自分自身を成長させることができる看護師になりたいと考えています。身に付けた知識を十分発揮できるよう、これからも精進し、キャリアアップを目指していきたいです。

10年目になっても、初心を忘れずに常に向上心をもってスキルアップし、高度な知識を習得していきたい。そして、利用者・家族に寄り添い、利用者にとって、安心できる存在になりたい。今、私が先輩方に優しく指導していただいているように、後輩にもしっかり指導できる頼れる看護師になりたい。

私は、利用者の立場に立って考えられる思いやりのある看護師を目指しています。限られた時間の中で利用者との関わりを大切にし、ただ業務をこなすだけでなく「利用者が今必要としていることは何か」を考えながらケアすることを大事にしたいです。そして、10年後も今の気持ちを忘れない看護師でありたいです。



6か月間
お疲れ様でした。



これからも
ご活躍期待しています！



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>